



パラスポーツの未来を語り合っ



認定NPO法人おやじ日本
理事長 竹花 豊

6月26日の第14回おやじ日本全国大会は、おかげさまで盛會に終わりました。いつもながら多くの方々のご支援、ご協力があったので、本当にありがとうございます。

今回のオープニングアトラクションは、3部構成でした。世田谷区立桜小学校の桜キッズバンドのプラスバンドは日ごろの練習ぶりをうかがわせま

した。また、東日本大震災の残した木から作ったヴァイオリンを式町さんが演奏し、皆の心を包みました。分教室はっば隊の歌とダンスのパフォーマンスからは、障がいを抱えながらも元気に向上しようとする子どもたちのまっすぐな気持ちが伝わってきました。おやじ日本は、このアトラクションを通じて、子どもたちと関わり続けたい、障がいを持つ方々と手を携えていきたい、東日本大震災を忘れないというメッセージを伝えたかったのです。

さて、本番です。仲前さんのパラリンピックの概要の説明の後、小川さんの優しい指導で渋谷区長を交えたウィルチエーラグビーの実演です。車いすをぶつけ合い、大きな衝撃音が舞台を轟かせました。激しいスポーツに心も震えました。そしてパネルディスカッションです。パラリンピアン田口さん、パナソニックでパラリンピックを統括する内田さんを加えて、本音のトークが繰り上げられます。本当に渋谷は障がい者に優しい街なのか、ハード面だけではなく気持ちの問題で多くの人々が障がい者に壁を作っていないか、2020年の東京パラリンピックでは競技会場のすべてを満席にするのが目標だなど、それぞれの経験を通して次から次へと話が及びます。会場の方からも本音の主張が聞けました。

私自身は、「パラリンピックは、何ができないかではなく、何ができるかを問うている。」という言葉や「不自由はあっても充実した人生を送れる。」という車いすテニスの第一人者であり続ける国枝信吾さんの言葉を紹介しながら、すべての人ができることを前向きにやることの大切さを教えられたとお話しました。

来年もパラスポーツの未来の第2弾を準備します。まだまだ私たちが知らないことがたくさんありますので。楽しみにしてください。

平成28年通常総会、無事終了

6月26日(日)午前10時30分より、大会会場の渋谷区文化総合センター大和田大練習室にて、平成28年度通常総会が開催されました。

総会では、司会を伊東一吉副理事長、議長に二村好彦副理事長を選出後、平成27年度事業報告、収支決算及び監査報告、監事の選任について審議が行われ、監事として長坂敏史監事が再任され、全ての議案が可決されました。

また、第1回定例理事会で理事が選任され、新たに石橋昌祐理事、澁谷豊理事、山口敏理事を選出し、理事職務分担を決定したことについて報告がありました。



審議事項
平成27年度事業報告について
平成27年度収支決算報告について
監事の選任について
その他

報告事項
平成28年度事業計画について
平成28年度予算について
理事について
事務局職員について
その他



↑再任された
長坂敏史監事



↑新しく理事に就任された、(左から)
石橋昌祐理事 澁谷豊理事 山口敏理事

理事及び監事

- | | | | | | | | |
|------|-------|-------|-------|-------|-------|--------|-------|
| 理事長 | 竹花 豊 | | | | | | |
| 副理事長 | 二村 好彦 | 伊東 一吉 | 納富 善朗 | | | | |
| 常務理事 | 小山 洋子 | | | | | | |
| 理事 | 浅野 悦洋 | 伊沢 公晴 | 石橋 昌祐 | 小池 英仁 | 澁谷 豊 | 寺澤 恵太郎 | |
| | 布村 幸彦 | 森田 孝明 | 山口 敏 | 山下 哲夫 | 和田 英光 | 渡部 徹 | 渡辺 嘉郎 |
| 監事 | 岩崎 智彌 | 長坂 敏史 | | | | | |

第14回認定特定非営利活動法人おやじ日本全国大会

「パラスポーツの未来～結構深いぞ 障がい者スポーツ！～」

【基調講演】(要約)

仲前 信治氏 (公益財団法人日本障がい者スポーツ協会 強化部強化支援課課長代理)

「知っていますか？ パラスポーツ」



自己紹介ですが、小学校5年生の娘がおります。過去ですが、パラリンピックには2004年のアテネ大会以降、日本選手団の一員として参加しています。

パラスポーツとはいったいどのようなものなのか。日本障がい者スポーツ協会では、今日皆さんにご覧いただくような簡単な材料を作成しており、インターネットで「日本障がい者スポーツ協会資料室」と検索すると入手できます。

はじめに、パラリンピックとは、4年に1回、オリンピックの直後に行われる障がいのある方の世界最高峰の大会であるのご理解いただければと思います。どういったスポーツなのか。簡単に言いますと、陸上競技、車いすテニスなどわれわれでも行っているような競技もたくさん行われます。障がいに対応して公平なかたちで競技をやってもらおうということで障がいの種類、どういった障がいの機能が体に残っているのか、そういった部分を競技の中に組み込んで、同じような障がいのレベルの人と対等に争う仕組みをつくっています。足を切断している車いすの選手、腕に障がいのある選手と一緒に走っても公平ではないということで、それぞれの中で競技をして、その中で世界一の人が必ずいるという仕組みになります。

道具の工夫についていくつかご紹介します。車いすですが、競技によってかたち、機能が違ってきます。低くて長いものは、陸上競技、マラソンなどの車いすです。まっすぐ進むために安定性があり、7キロぐらいで非常に軽い。一方で車いすバスケットボールやテニス、ラグビーなどはまっすぐ進むのではなくて止まったり、曲がったり、いろいろな動きを機敏に行いますので、そういった動きがしやすいかたちになっています。

走ったりする場合の義足についてですが、陸上競技の場合、ブレードランナーと言われるように走ることに特化したかたちの義足を使います。自転車は、義足をペダルをこぐのに必要なかたちに変えて競技をします。こういったさまざまな工夫をして、各競技でその条件をつくって世界各国の同じクラスの選手と競います。

次に、いつから日本で障がい者スポーツが行われるようになったか。実は前回、1964年に行われた第2回のパラリンピックが大きなきっかけになっています。1964年に東京オリンピックが行われた約1カ月後に日本でパラリンピックが行われました。そのあと国内で障がいのある人のスポーツの仕組みづくりの活動ということで、いま私がいる日本障がい者スポーツ協会の前身の団体がつくられ、その後、障がい者スポーツセンターなどの場所をつくり、パラリンピックに参加することを現在まで続けてきています。

スポーツ基本法が2011年成立して以降、パラリンピックもオリンピック並みに強化を行えるようになり、現在、文部科学省の中にスポーツ庁ができ、スポーツ行政が一元化されました。

日本障がい者スポーツ協会のビジョンはスポーツを通じて活力のある共生社会を目指そうということです。また、2020年東京オリンピック・パラリンピックのビジョンは三つの基本コンセプトを掲げています。多様性と調和、そういったキーワードをパラリンピックを通じて実現していこうとたっています。障がいがあってもいろいろな工夫があったり、社会的な環境を整えばわれわれと同じようにいろいろなことが可能になります。そういった社会をつくっていくことを目指しています。

スポーツをテーマにしているいろいろなことがいろいろな人に引き継がれて、正しい仕組みにつながっていけばいいなと思っています。今日こういったことをお話しする大きなテーマをいただいたと思いますので、ぜひ皆様もいろいろなことに気付いていただけたらと思います。

【デモンストレーション】

小川仁士氏(BLITZ 埼玉所属 あいおいニッセイ同和損保勤務)

「ウィルチェアーラグビーは おもしろい！」

ウィルチェアーラグビーは約40年前にカナダで考案され、障がいの重い人でも主役になれるスポーツです。車いすバスケットは足に障がいがあればできますが、ウィルチェアーラグビーは足と手に障がいがないと出来ません。私は手の指がまったく動きません。でもボールと車いすをうまく使ってウィルチェアーラグビーの競技を行っています。

ウィルチェアーラグビーは障がいの重い人も軽い人もみんな平等に出られるように持ち点が選手一人ひとりに与えられます。

障がいの重い人が0.5点、最も障がいの軽い人が3.5点の0.5点刻みの7段階です。ウィルチェアーラグビーは4対4で体育館で行われますが、コートに出る4人の持ち点の合計が8点以内で組まなければなりません。障がいの軽い人ばかり入れると8点を超えてしまいますので、障がいの重い人も出場機会が与えられ活躍できるスポーツです。

また持ち点によって役割や車いすの性能も変わります。ウィルチェアーラグビーは、車いす競技で唯一コンタクトプレー(タックル)が許されている激しいスポーツです



↑左から大久保将正会員、布村幸彦理事、長谷部健渋谷区長、小川仁士選手



【パネルディスカッション】(要約)

「結構深いぞ 障がい者スポーツ！」

竹花 まず皆様方にお聞きしますが、ウィルチェアーラグビーを経験したことがある方、その時の感想はいかがでしたか。私も熱くさせられるものすごくおもしろい、信じられないような音でした。本当におもしろい、興味深いデモンストレーションをありがとうございました。

さて今日はパラリンピアンの方の田口亜希さんをお招きしています。田口さんは射撃ですが、どうしてそんなことを始められたのかを話をさせていただきますか。

コーディネーター

竹花 豊(認定NPO法人おやじ日本理事長 元東京都副知事)

パネリスト

田口 亜希氏(パラリンピアン・射撃)

小川 仁士氏(「BLITZ」埼玉所属 あいおいニッセイ同和損保勤務)

長谷部 健氏(渋谷区長)

仲前 信治氏(公益財団法人日本障がい者スポーツ協会
強化部強化支援課 課長代理)

内田 賀文氏(パナソニック株式会社 パラリンピック統括部長)

田口 今はこのように車いすに乗っていますが、以前は自分の足で歩いていました。世界一周もする客船「飛鳥」でパーサーの仕事をしていましたが、25歳のときに脊髄の中の血管が破裂して、中枢神経を圧迫、脊髄の神経を傷つけました。小川選手と同様脊髄損傷という症状で、通常損傷したところから麻痺します。



車いすでは「飛鳥」船上では働けないので、会社が働ける場所を探してくれて、バリアフリーが整っているグループ会社で働くようになりました。仕事にも少し慣れ、仕事以外にも何か自分でできることがないかと考えていたときに、ちょうどリハビリ病院で一緒だった人と会って、ビームライフルに誘われました。ビームライフルは光線銃で銃刀法に関係なくだれでもできる手軽なスポーツです。

初めて出た試合、そして次の試合と優勝が2回続き、そのときに教えてもらっていたコーチから「銃刀法の許可を取って、実弾が出る射撃をやってみないか」と誘われ、試験を受け許可を取りました。その頃はパラリンピックとかはまったく考えてなくて、ただ自分にできることがあるのがうれしかったのだと思います。そしてコーチから「毎週ここで練習しているから来てみないか」と言われて練習に行くようになり、「試合に出てみないか」と言われたので、また行ってみようかと、誘われるがままにどんどん試合に出るようになり、何のことかわからないまま選考会にも出てみたら、終わったあとに「今回ベスト3に入った人は今度韓国で行われる世界大会に出てもらいます。」と言われ、そのときはいまのようにパラの選手には補助がなかったので、「お金をためておくように」、「パスポートを用意しておくように」と言われました。そこで初めて世界大会に出るのだと知りましたが、そのときもまだパラリンピックは何も意識していませんでした。その世界大会で日本人の中では上位に入り、その次の国際大会でメダルを取ったときにコーチから「このままいくと2年後のアテネパラリンピックに出れるかもしれない」と言われ、初めて私パラリンピックに出れるかもしれないのだ、では2年間これからどうやっていこうと考えました。

病気になって何もできなくなり、自分には未来がないと思い、もう将来のことを考えないでおこう、みんなのように何か

い、もう将来のことを考えないでおこう、みんなのように何か夢を持ったりすることはやめようと思いました。自分にはできないことが多くて希望してもできないのだからやめよう、と思って、先の事を考えると怖くなるので、あえて数日先の事だけを考え、友だちと約束をしてご飯を食べに行くとか、1週間か1カ月ぐらいの楽しいことだけしか考えないでおこうと思っていたのですが、コーチから「アテネパラリンピックに出られるかもしれない」と言われ、これから2年間、何をしなければいいのだろうと思ったときに、ああ、私は2年も先のことを考えている、自分が何か目標を持って頑張っているということに自分自身で驚きました。

私はたまたま射撃というスポーツに出会い目標を持つことが出来たのですが、やはり目標を持つことは障がい者にとっても、また健常者にとっても必要な事ですし、そういう意味では、スポーツはすぐ身近な目標を持てる手段なのだと思います。

竹花 田口さんは射撃の才能が
おありですか。

田口 最初に教えてくれたコーチが良かったかなと思います。射撃はどちらかと言うとねらっているイメージが多いですが、私たちの射撃は標的を撃ちますので、いつも同じ姿勢で撃たなければいけないので姿勢が大事なんです。

竹花 射撃をやっている方々は年齢的にいかがですか。

田口 年齢は、比較的高いですね。今度のリオのパラリンピック、この間オーストラリアの選手が発表されましたが、74歳の女性が出場いたします。彼女は16回目のパラリンピックと書かれていました。ロンドンパラリンピックにも出場していましたが、その時もベスト8に残っていました。

射撃は体力も必要ではありますが、より精神力と集中力が求められる競技です。大人になると色々な経験をして精神力も強くなりますので、そういう意味では長くできる競技ではないかと思います。

竹花 東京パラリンピックはどうされるんですか。

田口 また考えさせていただきます。

竹花 期待をしておりますので、これからも頑張ってもらいたいと思います。さて、今度は田口さんを僕に紹介をしてくれた内田さんにお話を伺いたいと思います。



内田 パナソニックでパラリンピックを担当している内田です。パナソニックはオリンピック、パラリンピックのワールドワイド公式パートナーの契約をしています。



特にパラリンピックについては、2014年10月に日本企業で初めてパラリンピックの契約をしています。いま日本企業では、パナソニックとトヨタ、2社になっています。

パナソニックの取り組み、いま経済界がどんな取り組みをしているのかというところを少し説明させていただければと思います。オリンピック・パラリンピック開催時にはアクセシビリティガイドラインがあり、車いすの座席数を総席数の0.75%以上用意しなければならないという規定があります。

パラリンピックになると、やはり仲間を応援しようと車いすの方が多く来られますので1%以上、特に今日のようなウィルチェアラグビーとか車いすバスケットなどの車いす競技に関しては1.2%以上と決められています。東京大会では1000万人動員しようという話になっています。すると、1日7000人以上の車いすの方が往來される。今日私は蒲田からここまで電車に乗ってきましたが、車いすに乗っている方は誰一人会いませんでした。今まで最大で見た台数は6台です。皆さん、これからこの話をしましたので、1日何台の車いすの方を見るかカウントされるとわかんと思います。2020年には数えられないくらい車いすを見るようになると思います。

私にはいま夢があります。パラリンピックの会場を満席にしたい。東京大会は第2回目のパラリンピックの大会です。第2回目のわれわれとして満席にしないと世界から見て恥ずかしい。これをどうしていくかというところで、いまパナソニック、また経済界で考えているのは、海外から、また地方から来られたお客様は空港から入ります。それから駅を通過して街中を通過してスタジアムにというところを、安心・安全にご案内しよう。障がい者や高齢者の方々に安心して一人でも会場まで行ってもらえるようにしようということです。満席にするには小川選手はじめパラリンピックの選手たちにも頑張ってもらわなければなりません。1人でも2人でも多くの方にこのパラリンピック、パラスポーツについて理解していただきながら、おもしろいな、じゃあ行こうと、そして行くときには安

心・安全に会場まで行けるようにしようという取り組みをわれわれはしています。

障がい者や高齢者の方々が安心・安全に移動してもらおうということで考えました。それだけではありません。大きな荷物を持っている方、ベビーカーを押されている方が街を歩くときなかなか困難です。いま持っている最先端の技術を使いながら、安心・安全に移動することができないか、パナソニックや経済界、企業のメンバーは考えています。

今日はいろいろなディスカッションをしながら、また会場のお越しの皆様からいろいろな要望を聞きながら、2020年、世界から見てさすが日本と言われるような取り組みをこれからしてまいりたいと思います。

竹花 長谷部さん、渋谷区は相当しっかりやってくれていると僕は思っているのですが、いかがでしょうか。



長谷部 なぜパラリンピックに渋谷区が注目するかというと、当然会場があるということもあるのですが、地方行政の大きな柱に教育と福祉があります。もちろん道路などの整備もあり

ますが、その中で特に福祉は大きなウエートをかけなければいけない部分です。その中で、このパラリンピックは福祉の動きを大きく変えるチャンスだと思います。それはロンドンのパラリンピックを見ていてもそうだったのですが、ロンドンのパラリンピックのポスターはすごくカッコいいものでした。そこにポンと出ていたコピーが秀逸で、“MEET THE SUPERHUMANS”「超人たちに会いにいこう」でした。いままで福祉の分野は手を差し伸べるのが中心になっていたのが、ここで初めて尊敬の対象に変わりました。これは非常に大きいことだったと思います。

このような当事者、障がい者も含めてマイノリティの問題は、僕ら健常者であるマジョリティの意識の変化が大きく求められるチャンスだと思います。僕自身は、実体験があって、15年ぐらい前から green bird という掃除のボランティアをやっているのですが、知的障がい者の方と年に1回、表参道の掃除をする日があって、2年3年と続けていく中で、楽しく掃除をしたあと、あるお母さんに言われた一言が今でも忘れられません。

お母さんが涙ながらに話してくれたのですが、本当に今日はありがとうございました。ただ掃除を一緒にやっただけなのに、なんでそんなこと思い、お聞きしたところ、自分の息子は知的障がい者で16年間育ててきたけれど、初めて社会の役に立っているのを見た。感謝される姿を見た。いままではサポートもいっぱいされていたけれど、自分の子どもが普通に世の中の一員として社会の役に立てるんだと。障がい者をサポートする話は、そんなきれいな話ばかりではないことは重々承知ですが、やはりそんなふうにならなったり、役に立つということが日常になっていくことが大事なんだと。パラリンピックには意識を変える非常に大きなチャンスがあると思います。

そうした経験などを踏まえて、特にパラリンピックを渋谷区で活性化させていきたいと考えています。具体的に何をやっているかという、渋谷区でもウィルチェアーラグビー、卓球、バドミントン、この3種目の会場になっています。東京体育館、代々木体育館があります。国立競技場も外側は実は渋谷区です。その三つの会場で、特にウィルチェアーラグビーは練習場所の確保がなかなか難しいということなので、区の体育館を開放して練習に使ってもらって、近くの小学生、お年寄りや地域の方が見に来る。実際に見て種目を知っていただいて、リオでは、メダルの可能性もあるということですので、みんなで応援することが出来たらいいと。そういった準備をしていきたい。

その空気感をつくらなければいけないと思う。それはさっき言った手を差し伸べるだけではなくて一緒に交わることが当たり前だという空気をつくる。違いを理解して、多様な価値観が集うまち。もともと渋谷にはそういう素地があると思うのですが、それをどんどん大きく成長させて、前に出していくことで、東京でのパラリンピックを迎えたいと思います。

竹花 大変自由な発想、考え方が示されたように感じました。ただそれをどうやっていくか具体化することがカギを握ると思います。今日は障がい者スポーツを通して、障がい者の問題、あるいはワンストップでさまざまな障がいの問題を考えていくきっかけになればと思いますが、ご提案はありませんか。

田口 渋谷のスクランブル交差点は、海外でも有名で、日本人はよくぶつからずに行けるよねと言われていますが、

渋谷のスクランブル交差点にかかわらず、人混みの多いところが私は苦手です。歩行者の目線の中に入っていないのです。ですから人混みを歩いても後ろにいる人は私が見えていなかったりするのです。それで後ろからぶつかられたり、前の人が急に振り返って私がぶついたり、日本全国、人混みの多いところでは、皆さんの中に車いすの人がいるというイメージがあまりないのかなと思います。障がい者がまだまだ出にくい社会、街なのかもしれません。

たとえば車いす用のお手洗いとか、車いす用の駐車場があればいいのですが、なかなかなくて、私もトイレがないとちょっと心配ですし、何かあったときにどうしようと思ったりすると、なかなか出られなかった時期もありました。今は病院や駅が近くにあれば車いす用のお手洗いはあるとか、大きな商業施設だったらあるなどというのがだいたいわかっています。そういうものがもともと広がれば、私たち障がい者もたくさん出ていけると思います。

長谷部 まだできていないところも当然あるのですが、これでもだんだんできてきたとはちょっと思っています。トイレをはじめ計画にそういう配慮したものが当然になってきました。渋谷区がこれからつくっていく施設もそうです。さまざまな課題が見えてきましたので対策を考えていきたい。

今日ここに来る前の朝のことですが、表参道で車いすの方に会って、声をかけようかどうか、ちょっと躊躇してしまいました。なんて言おうかな、「大丈夫？」と聞けばいいかなと。「頑張ってる」とか言ったほうがいいかなとか一瞬考えながら声をかけるのですが、慣れてくると自然に声をかけられるようになると思います。渋谷区では、心のバリアフリーをつくるために何ができるかということ協賛しています。

超福祉展をヒカリエで開催した折には、最新の義足やセグウェイの最新の車いすとか、いろいろなものを展示しました。期間中は企業と協働でセレクトショップのショーウィンドウに車いすとマネキンをディスプレイして日常のシーンを提案したり、SNSを有効活用して情報提供するなど考えられることを実行していきたい、どんどん仕掛けていきたいと思っています。

渋谷のスクランブル交差点で、たとえばバラの選手たちの試合のデモンストレーションもいいかなと。

竹花 車いすに乗っておられる方にどう声をかければいいのか、少し躊躇するということでしたが、私も同じで、階段があって困られている。どうしたらいいだろうかと思います。

われわれは考えなければいけないのですが、小川さんや田口さんはそういうことに戸惑っている人、そういう人たちに何かこうしたらということはありませんでしょうか。

田口 実は障がいによって全然違って、私と小川さんは同じ車いすですが、私は手は大丈夫、小川さんは手にも障がいがあるとおっしゃっていました。そのように障がい者によってそれぞれ違って、私たち障がい者同志も一緒にいただけではわからない部分もありますので、どうでしょう、とにかく声をかけてみる。先ほど長谷部さんがおっしゃっていたとおり、「何かお手伝いしましょうか」とか、「押しましょうか」と言ってくださったら、私は緩いスロープでしたら大丈夫ですので、自分でできる時は「大丈夫です」と言いますし、ただ小川さんでしたら手に障がいがあるので、もしきついところであれば「手伝ってください」とおっしゃると思います。

デモンストレーションを体験して おやじ日本正会員 大久保 将

体験者として、長谷部健渋谷区長、布村幸彦理事とともに参戦。車いす同士がぶつかり合った鋭い金属音が場内に響く。その衝撃で膝の上に乗せているボールも落ちてしまう。観客席からあまりの激しさに驚きの声が聞こえる。

私自身はラグビーに関わって既に30年以上になる。イギリスで大きな外国人相手にラグビーをしたこともあるが、それとは全く違った衝撃が体を貫く。通常のラグビーと違いステップでタックルをかわせない、逃げ場のない場所で相手が本気で試合でぶつかって来たことを考えると怖い。3人を横目に、小川さんは器用に車椅子を操作しながら、パスを出し、隙間を縦横無尽に抜き去る。車いすの操作さえ慣れれば誰でも楽しめ、かつ迫力のあるスポーツであると感じた。

小川さんから「障がいをもった自分が与えられた環境でどこまで頑張れるか問われていると思っていて、その環境を存分に使い、必死で頑張れば結果は忘れた頃についてくると信じて、今は頑張っています。」と言葉をもらった。日本代表となり、2020年東京で活躍してくれることを祈っています！

おやじ日本一同、応援しています！

きついところがあって、声をかけていただけると、ああ、うれしいなと思って「押ししていただいていいですか」とか言いますし、私たちも、やってもらえないとか、してもらえないと言うのはやめよう、自分たちは何ができないのか、どのような助けが必要かをきちんと言おうと話しています。私も自分が障がいを持つまで違いが分からなかったですから。

小川 電車に乗る機会があって、1車両に3人車いすで同じ駅で同時に降りることがあったらしいのですが、そのときにその駅には二つしかスロープがないということで、一人は駅員さんに車いすを押しもらったという話を聞いたときに、自分が車いすを押しもらったときに、いかに注意点を伝えるか。ホームと電車の間に前の小さいタイヤが入ってしまうとても危険なので、そこをどうやって伝えていけるかもこちらの責任だなと思います。



仲前 長谷部区長から先ほど700万人ぐらい日本には障がいのある方がいらっしゃるというお話がありました。人口の2割ぐらいは何等か、大人を基準にして物事を設定すると合わない人たちがいます。そういったことを東京大会ではガイドラインを定めて、一つひとつそういう人にも使いやすいサービスを提供しようということをやっています。

2020年の大会、前回大会で日本が変わった。2020年の大会は世界を変えるということの一つうたっています。世界を変えるためには、われわれ一人ひとり、いままでの自分から少しずつ変われば東京が変わっていくのかなと思います。いろいろな好奇心あふれる方々、本当に変わっておもしろい変化、パラリンピック以外にもたくさんあるのですが、今日いろいろなお話の中で自分が今日の自分より明日の自分のほうがよくなる、そういった変化する世界を目指していく。みんな2020年、歴史を変えていくということで取り組んでいただければ素晴らしいと思います。

竹花 今日は長時間にわたってお付き合いをいただきましてありがとうございました。壇上の皆さん方に盛大な拍手をお願い申し上げます。

オープニングアトラクション

世田谷区立桜小学校4～6年生の希望者で構成された「桜キッズバンド」による吹奏楽の演奏で大会はスタート。本大会でも東日本大震災被災者支援のために製作されたヴァイオリンを使って式町水晶さんが「リベルタンゴ」(ピアソラ作曲)を演奏。また、パフォーマンスグループ「分教室はっば隊」によるダンス・パフォーマンス「ひとつぶの雨」が披露されました。若者のパワー溢れる熱演に、会場から大きな拍手が送られました。

吹奏楽 桜キッズバンド



ヴァイオリン演奏 式町水晶氏



ダンス・パフォーマンス 分教室はっば隊

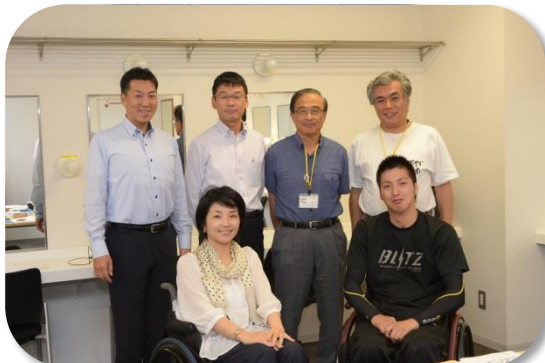


フィナーレ 合唱



第15回全国大会に是非、ご参加下さい！
 日時：平成29年6月25日(日)午後 場所：渋谷区内(予定)

開会前の打合せ



受付の様子 抜群のチームワークを発揮するスタッフ



大会終了後の交流会では…ご尽力頂いた多くの方々に心からの感謝を込めて



おやじ日本が誇る舞台・ITチーム今年も大活躍！

子どもたちへの熱い思いが「進化」のエネルギー。おやじ日本からのメッセージが参加して下さる方々へ届くことを願い、作業の打合せを重ねながらより良い発信方法を協議。今大会でもチーム一丸となった強い共感力と大きな勇気で

様々な難題を解決。

メンバー相互が役割を尊重しながらチーム力を発揮。平成29年度第15回大会へ向けた技術試行がすでに始まっています。チームカラーは謙虚な姿勢と静かな理性。



NHKニュース、新聞等にて大きく報道！

「おやじ日本」26日に全国大会
 全国の「おやじの会」を支援するNPO法人「おやじ日本」が26日、東京都内で全国大会（読売新聞社、全国読売防犯協力会共催）を開催する。今回のテーマは「パラスポーツの未来～結構深いぞ障がい者スポーツ！～」で、障害者への理解を深める機会にする。当日は、日本障がい者スポーツ協会の仲前信治さんが「知っていますか？ パラスポーツ」と題して基調講演する。午後1時25分から、渋谷区文化総合センター大和田・さくらホールで。定員500人。資料代500円。問い合わせはおやじ日本（03・3462・7113）へ。

↑平成28年6月17日読売新聞

全国の「おやじ」結集 パラスポーツ
 NPO法人「おやじ日本」の全国大会（読売新聞社、全国読売防犯協力会共催）が26日、渋谷区内で開催された。約500人が訪れ、「パラスポーツの未来」をテーマに、障害者スポーツについて話し合った。会場は、パラリンピック競技の一つ、車いすラグビーのデモンストレーションが行われた。接工監のチーム所属する選手らが勢いよく車いすをぶつければならぬ。その後、射撃でアテネ、北京、ロンドン大会に出場したパラリンピアンの中口忠若さんを招き、パネルディスカッションが行われた。同法人理事長の竹花登さんは「パラリンピックやパラスポーツを通して障害者のことを知るきっかけにしてほしい」と話した。

↑平成28年6月27日読売新聞

ご賛助ありがとうございます。

浅倉溢朗 飯田五郎 石田桂久 弁護士今井和男 AYA交通(株) 弁護士尾崎毅 開進交通(株) (株)寿商会 コンドル文化厚生福祉事業団 境交通(株) 三幸交通(株) 三信交通(株) ジェイワイエスジャパン(株)
 渋谷ビル経営者協会 昭栄自動車(株) 省東自動車(株) 杉並交通(株) (公社)スコレ家庭教育振興協会
 (公社)ストップ・ガン・キャラバン隊 全国読売防犯協力会 つばめ交通(株) 中央総合法律事務所中務嗣治郎 東京協同タクシー(株) 日興自動車(株) 日個連事業協同組合 日個連東京都営業協同組合 西会計事務所
 日日交通(株) 日本映像ソフト制作・販売倫理機構 認定 NPO 法人日本を美しくする会 野口修 平野博文
 広島中央ロータリークラブ 日吉交通(株) 弁護士深澤直之 不二交通(株) 富士自動車(株) 富士通(株)
 (株)ベーシック 保険情報サービス(株) マコト交通(株) 焼肉苑麻布十番店 (株)読売新聞 龍生自動車(株) (株)ローソン (株)LOSA 和親交通(株) (五十音順)

未来教室

◆平成28年度

第1回

日 時	平成28年6月22日(水) 10:40～12:15
学 校 名	文京区立汐見小学校
実施学年	3年生2クラス(59名) 合同
課 程 等	理科
授 業 内 容	「チョウの楽しさ」
協 力 企 業	日本鱗翅学会会員 蝶類科学学会会員



第2回

日 時	平成28年7月9日(土) 9:40～11:30
学 校 名	杉並区立井荻学校
実施学年	5年生2クラス(37名) 合同、6年生2クラス(49名) 合同
課 程 等	総合的な学習の時間
授 業 内 容	ケイタイ・インターネット安心安全教室
協 力 企 業	おやじ日本



第3回

日 時	平成28年7月9日(土) 9:45～11:35
学 校 名	杉並区立東原中学校
実施学年	1～3年生各2クラス(176名)
課 程 等	総合的な学習の時間
授 業 内 容	キャリア教育「生き方を学ぶ講座」～企業の人の話を聞く会～
協 力 企 業	株式会社 ゼンショーホールディングス 読売新聞東京本社 ヤマト運輸株式会社 株式会社 JTBコーポレートセールス あいおいニッセイ同和損害保険株式会社 あいおいニッセイ同和損害調査株式会社 EY税理士法人



第4回

日 時	平成28年7月14日(木) 13:30～15:20
学 校 名	新宿区立西早稲田中学校
実施学年	2年生 4クラス(153名) 合同
課 程 等	総合的な学習の時間
授 業 内 容	「マナー教室」～職場体験の事前学習～
協 力 企 業	リーガロイヤルホテル東京



防災教室～助けられる人から助ける人へ～

◆平成28年度第1回

日時:平成28年5月23日(月)
場所:渋谷区立渋谷本町学園
講師:おやじ日本担当理事 寺澤恵太郎



i S運動

◆埼玉おやじネットワーク講演会講師派遣

テーマ:「スマートフォンが与える青少年への影響と対策」

日時:平成28年2月21日(日)

場所:上尾市立原市公民館

講師:おやじ日本担当理事 森田孝明

アドバイザー:片山潮



◇◆ 活動報告 ◆◇

平成27年度

- ☆第4回定例理事会 3月26日(土)
- 審議事項
- 平成28年度事業計画について
- 平成28年度事業予算について
- 報告事項
- 第14回全国大会について
- 平成28年度事業助成申請について
- 平成27年度中間決算メモについて 他



☆運営委員会

- 1月度運営委員会 1月23日(土)
- 第14回全国大会 互礼会決算 埼玉おやじの会研修協力
- 平成28年度行政財産使用申請許可
- ホームページドメイン更新 未来教室 防災教室 他
- 2月度運営委員会 2月14日(土)
- 第14回全国大会 平成28年度事業計画 未来教室 防災教室 iS運動 83運動 上尾市おやじの会との連携他
- 3月度運営委員会 3月26日(土)
- 第14回全国大会 第4回定例理事会報告
- 平成28年度事業助成 未来教室 iS運動 防災教室 83運動 埼玉おやじネットワーク研修会 他

☆第14回全国大会実行委員会

- 第1回実行委員会 1月23日(土)
- 第2回実行委員会 2月14日(土)
- 第3回実行委員会 3月26日(土)



☆第14回全国大会舞台・IT技術チーム打合せ会

- 第1回 3月20日(日)
- 報告会 7月26日(日)



平成28年度

- ☆総会 6月26日(日)
- 於 渋谷区文化総合センター大和田4階 大練習室

☆第1回定例理事会 6月4日(土)

- 審議事項
- 平成27年度事業報告について
- 平成28年度決算報告について
- 平成28年度補正予算について
- 理事の選任について
- 監事候補について
- 総会議案について 他



報告事項

- 平成28年度年賀寄付金配分申請結果について
- 平成28年度正会員名簿について
- 事務局職員について
- 第14回全国大会について 他

☆運営委員会

- 4月度運営委員会 4月3日(日)
- 平成28年度予算 第14回全国大会 他
- 6月度運営委員会 6月4日(土)
- 第14回全国大会 平成28年度第1回定例理事会報告
- 未来教室 防災教室 iS運動 他
- 7月度運営委員会 7月30日(土)
- 第14回全国大会報告 大会決算 未来教室 防災教室 iS運動 83運動 他

☆第14回全国大会実行委員会

- 第4回実行委員会 4月3日(日)
- 第5回実行委員会 6月4日(土)
- 実行委員会報告会 7月30日(金)



☆第14回全国大会舞台・IT技術チーム打合せ会

- 第2回 4月24日(日)
- 第3回 5月21日(土)
- 報告会 7月3日(日)

おやじ日本の会議・活動日程はホームページに掲載しています。是非ホームページをご活用下さい。
アドレス：<http://oyaji-nippon.org/>

賛助・寄附のお願い

おやじ日本は活動の趣旨に賛同して下さる方々に賛助・寄附を募っております。皆さまからのご理解とご支援を頂きたく、お願い申し上げます。おやじ日本は、国税庁から認定NPO法人(国税庁課法11-86)として認定されていますので、おやじ日本に対して寄附または贈与された方につきましては、所得税、法人税または相続税上の課税について、寄付金控除等の特例が適応されます。賛助のご協力を頂ける方は下記振込先にご入金をお願い申し上げます。

みずほ銀行新橋中央支店 普通2059554 口座名 おやじ日本 / ゆうちょう銀行 00150-9-631618 口座名 おやじ日本
必要とされる方には領収証を発行させていただきます。ご理解、ご協力の程、宜しくお願い申し上げます。

【発行】 認定特定非営利活動法人おやじ日本

住所: 〒150-0042 渋谷区宇田川町5番2号 渋谷区役所神南分庁舎3階
TEL/FAX: 03-3462-7113 URL <http://oyaji-nippon.org/>
事務局及び担当理事 丸山容子 大喜滋子 小菅操

小山洋子 desk@oyaji-nippon.org

編集協力 丸山容子 京須和恵 片山潮 写真提供 小川写真館 加藤多津生

※ここに記載の内容は全て無断転載を禁じます

